

**わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会
第15回競技運営専門委員会 議事録（概要）**

1 日 時

令和5年（2023年）7月7日（金） 13時30分～15時06分

2 場 所

滋賀県大津合同庁舎7階 7 - A会議室

3 出席者

（1）委員（五十音順、敬称略）

伊勢坊 美喜、浮田 豊史、岡本 直輝、加藤 加織、坂下 和子、澤 弘宣、菅原 万智子、辻 和美、富永 寛隆、中村 傳一郎、森 寛、八木 佐知男、吉田 和弘（委員13名全員出席）

（2）事務局

辻事務局長、石野事務局次長、事務局員13名

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

■ 審議事項（1）

わた SHIGA 輝く国スポ 競技別リハーサル大会（案）の決定について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

なし

■ 審議事項（2）

わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技 競技会会期変更（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

■ 審議事項（3）

わた SHIGA 輝く国スポ 公開競技 競技会会期変更（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

なし

■ 報告事項（１）

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ 実施競技選択・会場地市
第四次内定（案）について

※ 事務局より説明

■ 報告事項（２）

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ 主管団体名変更について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

広報については、正式競技と併せて広報しているのか。あるいは別でされているのか。

<事務局>

広報については、正式競技、特別競技、公開競技と全体としてやっていく部分もあるが、デモンストレーションスポーツについては、当該年度の４月から開会期間中までの間に開催されることから、特別に先駆けての広報を考えている。今年度はリーフレットを作成し、市町や体育施設を通じて配布し、参加していただけるように広報していく。

<委 員>

近江八幡市、高島市のウォーキングについて、私たちが考える競技にウォーキングがどういう点をもって競技の範囲に入るのかがよくわからないので教えてほしい。

<事務局>

デモンストレーションスポーツについては、競技性の高いものから参加・体験型のものまで幅広くある。ウォーキングについては順位を競うのではなく、みんなで完歩を目指す競技である。その意味で、デモンストレーションスポーツについては、幅広い範囲のスポーツであると考えている。

■ 報告事項（３）

わた SHIGA 輝く国スポ 練習会場の変更について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

各体育館や学校施設を使用するとのことであるが、トイレ等の増設はおこなわないということか。

<事務局>

競技に伴う仮設等増設はあるが、周辺の施設については、増設はせずに既存施設

を使用するのが前提である。

<委員長>

先催県の視察に行くと思うが、このような練習会場の状況も含めて見学されると考えてよいのか。

<事務局>

練習会場も含めて視察する。どのように、どれだけ使用されているのかは重要な視察のポイントでもあるので、今年の鹿児島大会についても同様に対応していく。

<委員>

学校施設を使用される場所であるが、所属する生徒、教員はどの程度制約が生じるのか教えてほしい。

<事務局>

体育館やグラウンドを使用させていただくことから、授業やクラブ活動等が一定の期間できなくなるとか、トイレの使用など場所の制約も生じることとなる。全国から来る国スポに出る選手を応援する意味で協力をお願いしたい。

<委員長>

関連して、市町によって温度差はあるか。

<事務局>

学校施設を使わせてほしいと思う競技団体は多い。学校は教育現場であることから、生徒、授業、クラブ活動への影響を考慮しなければならないと考えている。県立学校については、教育委員会と十分協議のうえでここまで進めてきている。また、市町の学校施設については、調整を市町にお任せしているところである。

「夏休みの期間を少しずらして、生徒たちに見学の機会や運営のお手伝いができるかと考えている。」という意見もある。半世紀に一度のせっかくの機会であることから、生徒たちには競技の魅力を生で感じてもらいたいと考えている。知事もそのような考えを持っておられることから、子供たちの未来につながるよう考えていきたいと思っている。

<委員>

国体があることはすごく良いことであるが、現場の体育教師として体育の授業の制約に対してある程度対応していかなければならないと思う。その際に、いろいろ要望を出そうとしても管理職との調整がつかず、我慢しなければならぬのが現状である。現場側としては、様々な面で我慢しなくてもよいように、県としても配慮していただけるようお願いしたい。

<事務局>

そのような意見があったことは県教育委員会と共有しながら、大会を成功させるためにいろいろお願いしており、授業等にも影響があることも十分承知している。教員の負担もかなりあることも承知している。その中で、臨時講師の配置とか人的な措置についても教育委員会と話しながら一定実現できている部分もあるので、今いただいたご意見を共有しながら、現場の先生方の負担が少しでも軽減されるよう

工夫し、情報を教育委員会と共有していきたいと考える。

< 委 員 >

練習会場に関して、競技団体として何かやるべき役割はあるか。

< 事務局 >

基本的には、市町が場所を押さえ、使えるように準備し、管理されるので、基本的に市町の仕事と思っていただければよい。

■ 報告事項（４）

わた SHIGA 輝く国スポ 競技役員等養成事業の進捗について

※ 事務局より説明

【質 疑】

< 委員長 >

本大会までに役員数が満たされていなかった場合、近隣のところから役員の派遣をお願いせざるを得ないことになると思うが、その際、競技団体をお願いに行くのかそれとも大会本部がするのか、役割分担はどうなっているのか。

< 事務局 >

競技会運営は、競技団体と市町でやっていただくことになっているので、役員編成についても競技団体と市町両方でやっていただくことになる。中央競技団体から派遣される決まったものもあるので、それ以外の不足について対応していただくことになる。

< 委員長 >

中央競技団体への関わりについては、市町から関わっていくのか、あるいは滋賀県スポーツ協会から関わっていくのか。

< 事務局 >

役員養成については競技団体が計画される事業について補助するものである。養成が進んでいないところについては、県も競技団体にアドバイスを行いながら進めていきたいと考えている。

< 委 員 >

今年のかごしま大会で要請を受けて、競技役員として入る競技団体はどれくらいあるのか。またどれくらい的人数が競技役員として入られるのか把握していれば教えてほしい。

< 事務局 >

各競技団体が、競技役員として何名くらい行かれるのかについて、すべて把握できていない状態である。

< 委 員 >

全国障害者スポーツ大会のかごしま大会についても、競技役員として行き、協力いただけるよう県からもお願いしていただきたい。

<事務局>

役員として大会運営に携わることで、すべきことがよくわかるので、今後検討していきたいと思う。

<委員長>

バスケットボール競技は、鹿児島県への役員の派遣はあるのか。

<委員>

3年前に中央競技団体から審判で2名の派遣要請があった。国スポだけではなくて、インターハイや全中も同様であり、日本バスケット協会として定まった派遣の決まりがある。他の競技団体でも同じようにされているのではないかと思う。

<委員長>

資料に特記されている3競技（陸上競技、水泳、スポーツクライミング）に関して、最初に、陸上競技から状況をお聞かせいただきたい。

<委員>

審判数が最も足りない競技団体となっている。先催県の状況を見てみると、なかなか県内だけで役員数をまかなうのは無理な状況となっている。一方で、陸上競技関係者からすると深刻な数字ではなく、何とかなる数字であると思っている。日本陸連から数十名来てもらったりするなど、近畿ブロックではかなり協力体制ができてきており、互いに役員を派遣し合っている。先催県の状況を見て、数を読みながら取り組んでいる。引き続き役員を増やす努力もしつつ目標に数字を近づけていけるように頑張りたいと思っている。

<委員長>

S級審判員は、滋賀県内である程度確保できるのか。あるいは、他の都道府県からの派遣をお願いするのか。

<委員>

審判の等級については、あまりこだわる必要はない。最上級の審判が十数人いて最後のチェックがしっかりできれば良く、等級別の数字にこだわる必要はない。

<委員長>

また、県内大学競技者への要請を行うとあるが、授業とのかかわりで応援に行けるかどうかという問題が出てくると思うがその点はどうか。

<委員>

その点は多少心配もあるが、県内においても審判の派遣に協力してくれる大学も増えてきており、先催県を見習いながらうまく調整していきたいと考えている。

<委員長>

次に、水泳についてお願いします。

<委員>

水泳競技については、515名の競技役員が必要となっているが、一人一役で計算した場合で515名である。現在、種別ごとに競技役員の養成を行っているが、共通の競技役員というのが約半数を占めており、水泳は種目の会期が異なることや共通

の役員はどの種目でも対応できることから、実際の不足数はもっと少なくなる計算である。

また、現在、養成を積極的に行っており、年内においても100名以上の養成ができる予定である。

さらに、関西学連と話を進めており、県内の大学との協力体制をとっていただくことになっている。水泳は会期前開催となるので、夏休み中であることと、インカレが終わっていることから、大学生に来てもらいやすい環境にあり、また、アーティスティックスイミングや飛込については、近畿内での協力体制もできていることから、カバーしていけると考えている。引き続き目標に少しでも近づけていけるよう努力していきたいと考えている。

<委員長>

次に、スポーツライミングについて、事務局で補足があればお願いします。

<事務局>

スポーツライミングについては、元々スポーツライミングの役員は少なく、主体は山岳をされていた方で運営されている。その中からスポーツライミングの役員をしていただくという状況である。今年度に役割を決めて、来年度に講習会を行い役員養成するよう進められているところである。

<委員>

ソフトボールについての状況はどうか。経験上、こういうことは人脈がものをいうことから、母体が大きい団体であれば何とかなるかもしれないが、組織が小さい競技団体では、負担をあまりかけずにできるのではないか。

あまり競技団体に負担がかかるようであれば、一つの団体に任せるのではなくチームで人脈を使って取り組めるような仕組みがあれば、組織が小さい団体も安心できるのではないか。

<事務局>

ソフトボールの競技団体は、障スポ関係の大会へも大いに関わってもらっている。障スポだけでも3つ競技がある。ソフトボール協会の理事長と意見交換をしており、県と協力しながら地域人材の掘り起こしを進める方法もあると思っている。

つながりを見つけ出すのは新規では難しいが、掘り起こしの面で県もバックアップしていければと考えている。

<委員長>

陸上や水泳は一つの会場で開催されるので、競技団体とも連携しやすいが、ソフトボールは4つの市で行われる。複数市の場合、市同士でボールの投げ合いがあるのではないのか。

<事務局>

複数市町で対応いただいている市町については、そういうことも想定し、幹事市町を決め、幹事市町を中心に進めてもらっている。複数市町で調整が難しい場合は県も入ってスムーズに進むよう意見交換をすとか、統一性を持ってもらうような

取り組みもしてきたところであり、状況を確認しながら、状況に応じた対応をしていきたいと考えている。

<委員>

最近の機器の進歩により、手動から自動に変わる部分があることにより、審判の内容も手間が減るなど変わってきており、役員の必要数も変わってきていると思うが、何かそのような情報は把握しているか。

<事務局>

現状はそういった情報は把握していないが、今後そういう観点で情報収集してまいりたい。

■ 報告事項（５）

日本スポーツ協会国民スポーツ大会委員会での決定事項について

正式競技 種目名称・種別の変更

※ 事務局より説明

■ その他

（１）開催に向けた令和５年度の取組みについて

（２）競技運営専門委員会における今後のスケジュールについて

※ 事務局より説明

【質 疑】

なし

【全体を通して】

<委員>

記録速報について、各競技によっても様々なものがあると聞いている。弓道については、いまだに前近代的な人海戦術で事務処理をしており、最近ようやく全日本弓道連盟が主催する大会を、YouTube チャンネルを作って配信するようになってきている。過去にこの会議で意見を述べたが、リアルタイムで結果や状況を全国民に配信し、関心のある方に見ていただけるようなことを考えていかないと、内容や競技自体が非常に陳腐なものになってしまっていて、面白みのない競技になってしまう。

一方で、競技役員として、相当多くの方が汗を流しながら一生懸命やっているが、あまり効果のないことに労力を費やしているといった実情が見られる。

その要因は何かというと、日本スポーツ協会がライブ中継とかリアルタイムの試合結果を配信するということに対して、抵抗されているようなことを聞く。

今日、殆どの方がスマホを持ち、YouTube でいろいろな情報が配信されている。また、高体連の試合では、記録速報をスプレッドシートでどんどん流しており、選手も観客も皆がそれを見ることができるようシステムを作っている。我々も今度の

2025 国スポでは、このようなシステムを取り入れて、どこにいても滋賀県で開催されている国スポの状況がわかるようにしたいと考え、検討を進めている。

未だに速報 box がある。先催県が行っているから同じように行っているが、それに要する人、物に相当費やされている。そのことは非常に無駄なことをしていると思っているので、日本スポーツ協会に確認いただき、せめて、ライブ中継は無理でも、どこまで改善できるのかを聞いてほしい。

弓道では、高体連の大会で記録をスプレッドシートで流している実績があることから、テストを繰り返しながら広げていきたいと考えている。2025 年の国スポでは、切り替えたいと考えているので、どこまで可能なのか事務局で聞いていただきたい。できるだけスマートな大会にしたいと考えている。

<事務局>

アーチェリーの会場では、スマホで結果速報が見ることができていたと思うが、それが競技によって違うのか。他の競技のみなさんの状況を聞かせてもらって参考にさせていただきたいと思う。

<委員>

陸上競技はリアルタイムで見られる。

<委員>

水泳の速報は 3 本立てとなっている。SEIKO のリザルトシステムでのリアルタイム配信。日本水泳連盟でやっているリザルトシステムでのリアルタイム配信、各都道府県でやっている YouTube でのリアルタイム配信である。

<委員>

サッカーは、大日本印刷のシステムを使用したリアルタイム配信がある。費用はかなりかかる。記録はこれ以外では扱ってはいけないことになっており、これは中央競技団体の指定となっている。

<委員>

テニスは、スマホとメールで速報が見ることができる。

<委員>

バレーボールは、リアルタイム配信。

<委員>

バスケットボールは、リアルタイム配信。

<委員>

柔道は、リアルタイム配信。

<委員長>

コロナの影響で、各競技団体においてかなり進んでいる。各競技団体の状況を集約していただいて、統括して一本化していく必要があるならば、このサイトを見ればリンクできるような形にできれば良いと思う。

<事務局>

実態がよく確認できた。改めてどういう実態になっているのか日本スポーツ協会へ

問い合わせながら、ホームページのバナー等を見れば大会の状況がわかるようなポータル的なものがあれば非常にわかりやすいと思う。そういった工夫ができないか、また、実際どこまでの規制があるのかなど改めて確認したいと思う。

<委員>

県で広報のページを作ってもらって、そこに各競技団体の情報が見られるQRコードを貼り付けて、それをスマホで読み込んで見ることができるような形が一番スマートであると思う。

<事務局>

大会のホームページを作るので、それを入口として、各競技のサイトへリンクする形ができれば、スマートでとても利便性が良いものになると思うので、あらかじめ参加者の皆様にもお知らせしながらやっていきたいと思う。

<委員長>

デモンストレーションスポーツを含め、1月～2月頃から各競技の冊子が作られると思うが、そこにQRコードが入っていく形が良いかと思う。その辺は一度ご検討いただきたいと思う。

<委員>

2025年に向け滋賀県で統一したユニホームを作ると聞いているが、費用負担がどれくらいあるのか。選手が個人負担するのか。各競技団体が負担するのか。どちらかわからないが、今年初めて国体に出る選手は、今年買って、更にまた買うということになり、団体の場合は予算化する必要があるため伺いたい。

<委員>

滋賀県スポーツ協会が主として、2025年の国スポ・障スポ大会に向けて新しいユニホームを検討している。県スポーツ協会としては、当該年度は全額県で出しているようお願いしているところであり、ご検討いただけたらと思う。

<事務局>

今までは二分の一は個人負担で、半額補助のような形になっている。今回第79回大会については、全額でというご要望はいただいているが、様々な経費が必要となってくるので、今後の検討とさせていただきたい。

<委員>

開催準備の取り組みの危機管理についてお伺いしたい。もしもの場合など大会中止の判断基準について、リハーサル大会までに示していただけたらと思う。自身の経験から、3年前にブラインド柔道で東京国際大会を開催する際、コロナが増えてきている状況下で、開催予定から中止を決定する際に、責任者として判断を下すのに非常に苦しい思いをした経験がある。当時の反省から、あらかじめ、中止の判断基準と何時、誰が、どのように判断決定してどのように周知をするかをはっきりさせておく必要があると考える。経験上、是非お願いしたい。

<事務局>

国体の開催基準要項において、国体本大会開催の可否について、日本スポーツ協会

が審議し、文部科学省と当該開催県と協議した上で日本スポーツ協会が決定する手順に決まっている。例えば、自然災害、人為災害、特殊災害（テロ）、その他これらに類する事項として、感染症の蔓延などの場合の対応が決まっている。ご質問のリハーサル大会については、日本スポーツ協会の役割を誰がするのかについて、整理しておかなければならないと思うので、それぞれの団体と協議する必要があると考えている。

< 委 員 >

決めていただきたいのは、どういうことが起こったら、どの段階で誰が決めるかということである。例えば、台風の場合は1日～2日前などは当たり前であるが、感染症なら半月前に決定するとか、そのようなことをガイドライン的に作ってもらっておくとありがたい。一か月前にこういう事態が起これば中止とか、時系列と事象を併せたガイドラインを作っていたらありがたい。リハーサル大会はそれぞれ主催団体が違うので、主催団体との整合も必要であると思う。

< 事務局 >

リハーサル大会は、殆どは既存の大会を持ち回りで開催していることから、その既存の大会の基準があると思う。我々として設けなければならない部分については、既存のものとすり合わせをしていきたい。今後、リハーサル大会までには整えていきたいと考えている。

以 上